

## 大学の大衆化を考える

—高校生も放送大学で大学の勉強をしてしまおう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。  
只今は、大学入試センター試験をはじめ大学入試のまっただ中です。そこで今日は、「大学とは何か」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
2. 何十年も前ですと、高校卒業後に大学に進学する人は約 10 % ~ 15 % ぐらいで、ごく限られていました。その頃は、高校を卒業して大学に行ける方は 10 名に 1 ~ 2 名と本当に珍しいという状態だったのです。  
しかし、今は違います。50%以上の方々が 4 年制の大学に進学します。短期大学・専門学校・予備校も含めると、80%近くの方々が高校卒業後に大学・短期大学・専門学校等の高等教育機関に進んでいます。これを、大学の大衆化、あるいは高等教育の大衆化とすることが多いようです。多くの方々が進学するようになったのが近頃の大学・短期大学・専門学校です。高校を修了後に働く方もたくさんいらっしゃいますが、勉強する方はそれ以上にたくさんいらっしゃるということです。ただ、上には上の国があるもので、フィンランドでは日本よりも 10%近く多い 87%の方々が高校卒業後に何らかの形で大学・短期大学・専門学校等に進学して勉強しています。
3. では、なぜこのように進学率が高くなったのでしょうか。理由の 1 つは、世の中が豊かになったからだだと思います。理由のもう 1 つは、現在は知識を基盤とした社会であるため、難しい勉強をしたりスキルを身に付けたりしないと、なかなか仕事にもならないし、生きていくのも大変になるかもしれないからです。
4. ただ、大学等の高等教育機関への進学率が上がった一方で、高校での未履修問題という大きな問題も生じています。これは、高校が大学等への進学に力を入れるあまり、本来は高校で勉強すべき科目の授業を十分に行わないという問題です。大学等への進学を希望している方が多いわりには勉強が大変な方もいらっしゃいますので、せめて受験する科目だけでも勉強させたいという考えのもとに、高校はこのようなことを行っているのかもしれませんが。多くの皆さんが高等教育機関に進学するようになったため、受験科目を中心に勉強してうまく大学・短期大学・専門学校等に送り込もうということで、このように受験科目だけを教えるような形になってしまったのかもしれませんがね。
5. しかし、これでは本末転倒です。高校生であるならば、高校で勉強すべき科目はすべて十分に勉強すべきです。それを 3 年間でやり終えられなければ、4 年目あるいは 5 年目という形でやればよいと私は考えます。  
日本以外の多くの国では、4 年目・5 年目の高校生という方もたくさんいらっしゃいます。たとえば、フィンランドには 2 年間で高校を終える人もいれば、5 ~ 6 年かけて高校を終える人もいます。ゆっくりやることを許容するのがフィンランドです。
6. 私は、早くやりたい人は高校を 2 年で卒業してもよいですが、高校はゆっくりとやるのがよく、3 年から 5 年かけて 1 科目ずつきちんと勉強し、勉強が足りない科目はもう 1 学期、場合によってはもう 1 年やるという形がよいのではないかと思います。これを単位制と言います。日本で

は学年がくると 3 年間で卒業させてしまいますが、多くの国では単位制となっていて、1 つ 1 つの科目の勉強がきちんとできなければ、つまりその科目の単位が取れなければ高校であろうと卒業させない、本人も卒業してはまずいと考えるというのが普通です。日本もこのようにしたほうがよいのではないかと思います。

7. また、大学は 1 回だけ行くところではなく、人生の節目節目で行く場所であるのが、これからの姿ではないかと思います。例えば、今は格差社会と言われていますが、そのセーフティネットとして、失業したときは大学・短期大学・専門学校等に行く、自分をもう一度見つめ直したいときは自己実現のために大学・短期大学・専門学校等に行き直す、または大学院に行って勉強し直すこともよいと思います。つまり、仕事につまずいたり、別の人生を考えたいときなど人生の節目節目に行くのが、大学・短期大学・専門学校、そして大学院であると思います。
8. また、今までの勉強をもう少しスキルアップ・レベルアップしたいということも大事であり、そのために行くのも大学・短期大学・専門学校・大学院です。
9. 私は、社会人の方々が大学はじめそれらの学校の総人数の 3 分の 1 ぐらいになるとよいと思っています。中学校や高校、専門学校、短期大学、大学などを終えて社会に出た方が、別の学校にもう一度行くのもすばらしいことだからです。
10. さらに、もっと国際化して外国人の方も総人数の 3 分の 1 ぐらい入れていただくとよいと思います。日本は安心して暮らすことができますので、日本に来て勉強したい方は世界には山ほどいるからです。
11. このように、外国人の方が 3 分の 1，社会人の方が 3 分の 1，現役高校生からの方が 3 分の 1 の形で大学を考えていくとよいのではないかと思います。
12. それから、先ほどもお話したように、これからは知識が基盤となった社会になります。ですから、英語でのコミュニケーション能力やエクセルなどコンピュータのスキルをマスターしなければなりません。加えて、自分の得意分野を専門分野・領域として徹底的にマスターしなければなりません。自分自身の能力を強化しなければなりませんから、そのために大学等でもう一度学び直すのもよいと思います。
13. 例えば、栃木県には、大学等の高等教育機関が全部で 18 あります。大学生と短期大学生は合わせて 25000 名いらっしゃいます。定員に空きがあり、入学できる余地が十分にありますので、社会人の方も外国人の方ももっともっと大学等で勉強していただければと思います。大学院も社会人に開かれています。
14. さらにお勧めするのが、放送大学です。宇都宮大学の図書館の横に放送大学の栃木学習センターがあります。放送大学は 15 歳以上であれば誰でも入ることができ、入学試験はありません。正式な大学で、大学院もあります。放送大学で取得した単位は、他の 270 の大学で互換(互いに取り換えること)ができ、大学で勉強したことになります。費用も安く、1 単位 5000 円～ 10000 円ぐらいですので、卒業までにかかるのは 60 万円ほどです。ですから、高校生の方も大学生の方も、社会人の方も、放送大学を活用してどんどん勉強していただければと思います。高校生でも放送大学で勉強し、単位がとれ、その単位は 270 以上の大学で認定されます。元気な高校生は大学の勉強を高校生の内に勉強してしまうことをお勧めします。
15. 只今は大学入試のまっただ中ですので、今日は「大学とは何か」について考えさせていただきました。